



第 688 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日 時： 2023年2月18日（土）午後2時00分

来場開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

<https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/83887091979?pwd=RVJSaFR1V3ZJUzZaOURqc1NCRVhBUT09>



ミーティング ID：838 8709 1979 パスコード：765579

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
来場参加	500 円	小児科領域講習 1 単位（iii 貼付用） 学術集会参加単位（iv -B 貼付用）	*単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）
WEB参加	無 料	単位配布のご用意はございません。	



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 688 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 東京大学小児科 井上毅信》

開会あいさつ 14:00 – 14:05

第 1 グループ 14:05 – 14:50 座長 高橋 正貴 (日本赤十字社医療センター 小児外科)

1) Apple peel 型小腸閉鎖症の 1 例

○荒井 晶聖、小竹 悠子、山田 早彌、小林 亮太、熊澤 健介、林 至恩、田辺 行敏、小林 正久、大石 公彦

(東京慈恵会医科大学小児科学講座)

在胎 36 週、出生体重 2162g の女児。胎児期に羊水過多・消化管拡張を認めていた。出生後の消化管造影検査で十二指腸 - 空腸移行部狭窄が疑われ、日齢 1 の術中所見から apple peel 型小腸閉鎖症と診断した。術後に軽度の通過障害を認めたが徐々に改善し日齢 64 に退院した。Apple peel 型小腸閉鎖症は、術後合併症の管理に苦慮する報告も多く、慎重な管理を要するため文献的考察を加え報告する。

2) X 線検査での視認が困難だった硬貨誤飲の一例

○千田 理絵¹⁾、石田 悠¹⁾、山田 舞¹⁾、浅木 弓英¹⁾、高橋 諒¹⁾、税所 純也¹⁾、山中 岳²⁾

(東京医科大学八王子医療センター 小児科¹⁾、東京医科大学病院 小児科・思春期科²⁾)

14 歳女子。1 円硬貨誤飲を主訴に救急搬送された。胸部 X 線側面像で中部食道に両端が先細りするような陰影、正面像で同部位にかすかな円形の陰影を認め、1 円硬貨誤飲と診断した。1 円硬貨は 100% アルミニウムでできている。アルミニウムは X 線透過性が高く、X 線画像での視認が困難である。見逃しを防ぐためには、二方向での X 線検査を行うことが重要である。

3) 当院で経験した小児尿道脱の 5 例

○坪谷 ひなの¹⁾、宮田 恵理¹⁾、平松 直子¹⁾、矢賀部 彩音¹⁾、武田 翔¹⁾、宮野 洋希¹⁾、遠山 雄大¹⁾、丘 逸宏¹⁾、吉田 登¹⁾、鈴木 恭子¹⁾、大友 義之¹⁾、浦尾 正彦²⁾

(順天堂大学医学部附属練馬病院小児科¹⁾、順天堂大学医学部附属練馬病院小児外科²⁾)

小児における尿道脱は思春期前の女児にみられ、外科的治療を要することがある稀な疾患である。排尿時痛や血尿を主訴に一般外来を受診することが多く、診断に難渋することがある。我々は 13 年間で女児 5 例の尿道脱を経験し、いずれも小児科から小児外科へ紹介し治療を行った。初診時の平均年齢は 6 歳 5 か月、発見契機は陰部出血が最も多く、1 例で外科的治療を要した。

○指定発言 田中 奈々 (順天堂大学医学部附属練馬病院小児外科)

4) 川崎病の経過中に陰嚢水腫を呈した 1 例

○笹森 わかな、川合 玲子、山下 あかり、川村 悠太、清水 由律香、高月 晋一、松裏 裕行

(東邦大学医療センター大森病院小児科)

1 歳男児。発熱を主訴に受診し川崎病の診断で第 5 病日に入院した。CRP4.2mg/dl、主要症状 5/6、群馬スコア 4 点で免疫グロブリン 2g/kg に不応のためステロイドパルスを施行した。第 9 病日に右陰嚢の発赤腫脹を認め超音波所見から陰嚢水腫と診断したが、川崎病症状とともに第 20 病日までに軽快・治癒した。川崎病合併症としての陰嚢水腫の症例報告は少なく、文献的考察を含め報告する。

第2グループ 14:55 – 15:15 座長 森田 清子 (帝京大学小児科)

5) 当院における新型コロナウイルス感染母体から出生した新生児の臨床像—第7波までの検討—

○依田 恭尚、土方 みどり、片山 大地、原 康一郎、秋本 卓哉、今泉 隆行、清宮 綾子、岡橋 彩、長野 伸彦、森岡 一朗

(日本大学小児科)

分娩時に新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) PCR 検査が陽性であった母体とその母体から出生した児を対象とし、母体の新型コロナウイルス感染症の重症度と児の臨床因子との関連について後方視的に検討した。SARS-CoV-2 陽性母体は42人、出生児は双胎を含む43人だった。母体の重症度は中等症以上が5人(12%)であった。重症度に関わらず、全例で児の出生後のSARS-CoV-2 PCR 検査は陰性であった。合併症は、早産や通常の新生児に生じるもののみであった。

6) コロナ禍による管理途絶中に重度大動脈弁逆流を合併した心室中隔欠損症の1例

○田中 寛顕、田中 登、西山 樹、佐藤 浩之、井福 真友美、磯 武史、松井 こと子、福永 英生、稀代 雅彦、清水 俊明

(順天堂大学小児科)

4歳男児。出生した産科医院で心室中隔欠損症 (VSD) と診断されフォローされていたが、コロナ禍の影響で小児科部門が閉鎖され受診が途絶えた。最終受診より2年後、感冒による他院受診時に精査を勧められ当院紹介となった。VSDは肺動脈弁下型で、大動脈弁右冠尖逸脱と重度大動脈弁逆流 (AR) を認め可及的に手術を施行したが、中等度以上のARが残存した。VSD管理のpitfallについて検討する。

感染症だより 15:20 – 15:40 (講演:15分+質疑応答:5分)

講師 森野 紗衣子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:45 – 16:55 (講演:60分+質疑応答:10分)

「プライマリケアで診る「夜尿症診療」のコツ」 小児科領域講習1単位

座長 東海林 宏道 (順天堂大学小児科)

講師 西崎 直人 (順天堂大学医学部附属浦安病院小児科)

近年、小児の健康問題の一つとして夜尿症への関心が高まっている。日本夜尿症・尿失禁学会 (旧・日本夜尿症学会) は2021年に診療ガイドラインをアップデートした。その中には夜尿への対応はもとより、下部尿路症状 (昼間尿失禁など) を伴う夜尿症への対応も掲載されている。本講演では夜尿症を診る機会の多いプライマリケア医を想定し、初期診療におけるコツや注意点について解説する。

* * 休 憩 16:55 – 17:05 * *

第3グループ 17:05 – 17:40 座長 岡本 陽子 (NTT 東日本関東病院 小児科)

7) 両側頸部に膿瘍が多発した2か月男児

○西形 優実子、大西 卓磨、磯部 あいこ、八木沼 瑞紀、古市 宗弘、武内 俊樹、明石 真幸、新庄 正宜、高橋 孝雄

(慶應義塾大学医学部小児科学教室)

2か月男児。両側頸部多発膿瘍の穿刺検体から黄色ブドウ球菌が検出された。セファゾリンと穿刺排膿を2週間継続したが新たな膿瘍を生じ、切開排膿の適応と考えられた。しかし、広範な切開は乳児には高侵襲と判断し、抗菌薬を増量したところ、新規膿瘍は出現せず5週間の治療で軽快した。免疫不全を示唆する既知の遺伝子変異はなかった。患者ごとにリスクとベネフィットを慎重に評価した上での治療方針決定が肝要である。

8) 関節予後不良であった特発性股関節軟骨溶解症の1例

○宮岡 双葉¹⁾、金子 修也¹⁾、伊良部 仁¹⁾、真保 麻実¹⁾、清水 正樹¹⁾、瀬川 裕子²⁾、森尾 友宏¹⁾
(東京医科歯科大学発生発達病態学分野¹⁾、東京医科歯科大学整形外科²⁾)

15歳男子。1年前から左股関節痛が出現し、歩行困難・股関節拘縮が進行した。血液検査では炎症反応なく、MRIでは滑膜炎は認めなかったが左股関節裂隙狭小化・軟骨損傷を認め、特発性股関節軟骨溶解症と診断した。TNF α 阻害薬アダリムマブを導入し、疼痛は改善したが関節拘縮は残存した。炎症反応陰性であっても強い股関節痛がある場合は本症を疑い、MRIで早期診断し、治療介入することが関節予後改善に重要である。

9) 小児コロナウイルス感染症2019に伴う出血性ショック脳症症候群の1例

○菊池 奈々絵¹⁾、富田 慶一¹⁾、井手 健太郎²⁾、早川 格³⁾、宮坂 実木子⁴⁾、植松 悟子¹⁾、窪田 満¹⁾
(国立成育医療研究センター救急診療科¹⁾、同 集中治療科²⁾、同 神経内科³⁾、同 放射線診療部⁴⁾)

7歳男児。基礎疾患にDown症候群がある。新型コロナワクチンの接種歴はなかった。発熱、嘔吐、下痢およびけいれんがあり受診した。受診時GCS E4V4M5で頭部CT検査に異常はなかったが、2時間後に深昏睡、徐呼吸、低血圧、3時間後に瞳孔散大固定、平坦脳波となり、頭部CTで著明な脳浮腫を認めた。急性脳症の治療を行ったが、入院4日目に死亡した。小児コロナウイルス感染症2019の死因において脳症は重要である。

○指定発言 阿部 裕一 (国立成育医療研究センター 神経内科)

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【プログラム抄録集の郵送停止について】

ペーパーレス化に伴い、2023年1月よりプログラム及び開催案内はホームページへの掲載と会員へのメール配信に切り替えました。メールが届かない場合は、学会バンク会員ページからアドレスのご確認をお願い致します。引き続き郵送をご希望の先生は事務局にご連絡ください。

【年会費お支払いについて】

会員の皆様に新会員システム【学会バンク】利用開始のお知らせを郵送しております。オンライン上で会員情報をご登録頂き、各自年会費の納入をお願いします。
2022年度年会費を未納の方は必ず2023年3月末日までにお手続きお願いいたします。
3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。
今後の会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2023年3月11日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲) + ライブ配信
2023年6月10日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲) + ライブ配信
2023年7月8日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲) + ライブ配信
*会場の関係で2023年5月は休会となります。

【担当医局】 日本大学医学部小児科

連絡 ☒ : jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中は会場03-6627-2151へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】

<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

◆ 関連学会の講演情報 ◆

第122回 東京小児科医会 学術講演会（オンデマンド配信）お知らせ

主 催：東京小児科医会

配信期間：2023年3月18日（土）～4月2日（日）

参加費：会員 3,000円 非会員 5,000円

認定単位：小児科領域講習（2講演 各1単位 申請中）

申込み・入金受付期間：2023年2月16日（木）～3月24日（金）

*参加方法、プログラム等詳細は 東京小児科医会ホームページ

<https://tokyo-pediatrics.org/> よりご確認ください。